

令和2年度第3回区政モニター一会議議事録

令和2年12月5日（土）午前10時から正午
北とぴあ 13階 飛鳥ホール

政策経営部広報課

第3回区政モニター会議議事録

- 1 日時 令和2年12月5日(土) 午前10時から
- 2 場所 北とぴあ13階飛鳥ホール
- 3 テーマ 北区地域包括ケア推進計画について
- 4 出席者 高齢福祉課長、高齢福祉主査、高齢福祉課職員、
広報課長、広報主査、広報課職員、
区政モニター 27名

1. 開 会

◎広報課長

それでは、定刻となりましたので、区政モニター会議を始めさせていただきます。
改めまして皆様、おはようございます。本日は、お足元が悪い中当会議にご参加
いただきましてありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただきます、北区政策経営部広報課長でございます。
よろしくお願いいたします。

着座にて進行させていただきます。

今回は、「北区地域包括ケア推進計画について」というテーマで、皆様にご意見
をいただく予定でございます。

それではまず、本日の出席者を紹介させていただきます。

高齢福祉課長でございます。

◎高齢福祉課長

よろしくお願いいたします。

◎広報課長

高齢福祉主査でございます。

◎高齢福祉主査

よろしくお願いいたします。

◎広報課長

後方にも高齢福祉課職員が出席しております。

そして、こちらにおりますのが広報課事務局でございます。

よろしくお願いいたします。

続きまして、お手元の資料等の確認をさせていただきます。

まず、「会議次第」。次に、「北区地域包括ケア推進計画について」ということ
で、パワーポイントの資料をご用意しております。その次に、「北区ニュース11
月20日号 特集号」。続いて、「こんにちは高齢者あんしんセンターです」とい
う冊子。続いて、「北区マイエンディングノート」です。続いて、「あなたもあ
なたのまちも 笑顔で長寿」というパンフレット。あと、各班に1枚、模造紙をご
用意させていただいております。また、A4のコピー用紙をお一人1枚、サインペ
ンも1本、また付箋を3色をご用意しております。そして封筒に入っています「区政
モニター活動に対する謝礼金の支払い書類一式」です。以上でございますが、不足

がございましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

次に、本日の進行方法についてご説明をいたします。まず、高齢福祉課長より、15分程度、「北区地域包括ケア推進計画について」ご説明をさせていただきます。説明終了後に各グループに分かれていただき、グループワークをしていただきます。グループワーク中に質問等がありましたら、その都度お声掛けください。よろしくをお願いいたします。グループワーク後は、グループ内で出た意見の発表をしていただきます。前回までの区政モニター会議では、各グループ3分間で発表をしていただきましたが、今回の会議では会場の都合上、各グループ2分程度で発表していただきたいと思います。発表者の方は、自分のグループ内で出た意見を2分間でまとめて発表してください。なお、今回も事前に各グループの進行役と発表者を決めさせていただきます。役割を指名されたが、どうしてもできないという方がいらっしゃいましたら、グループ内で調整をお願いいたします。

本日のモニター会議終了後に、今回も議事録を作成させていただきます。議事録は、北区ホームページなどで公開させていただきます。議事録に載る部分は、開会、説明、発表の部分です。各グループでの話し合いの内容は、記載いたしません。会議中の発言者名につきましては、匿名とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、記録用等、北区ホームページの掲載用として、会議中の様子を写真撮影させていただきます。ホームページ掲載時は皆様の顔がはっきり映らないよう、配慮させていただきますのでご了承のほど、よろしくお願いいたします。

進行方法につきましてのご案内は以上でございます。

2 . 説 明

◎広報課長

それでは、次第の2の説明に移らせていただきます。高齢福祉課長よろしくお願いいたします。

◎高齢福祉課長

皆様、おはようございます。高齢福祉課長でございます。

いつも、高齢施策をはじめ、様々ご協力いただきまして、ありがとうございます。

本日は、北区地域包括ケア推進計画についてお話をさせていただきたいと思います。

(スライド1参照)

こちらの計画は、現在策定中の計画でございまして、「高齢者保健福祉計画」と「第8期介護保険事業計画」を合わせて作っております。令和3年度から5年度の3年間の計画となっております。

(スライド2参照)

まず、この計画に関して高齢者の現状をお話したいと思います。区の施策を考える時には、人口や人口動態は基本的知識として非常に重要となっております。北区の人口は、令和2年1月1日現在約35万4,000人です。北区では、人口3

3万人前後の時代が長く続いておりましたが、平成27年頃から人口が増加し始めまして、28年には34万人、令和元年には35万人を超えてまいりました。こちらは、65歳以上を高齢者といいます。高齢者数は8万7,402人。高齢化率は、24.7%になりました。高齢者数は、平成30年に8万8,000人を超えましたが、その後減少を続けております。また、高齢化率も、平成28年に25.6%まで上昇しましたが、区の人口が増えていることで、高齢化率も低下を続けております。平成21年から31年まで、東京23区で高齢化率が1番で、「北区は高齢化率1番です」とずっと言い続けてきたんですけれども、今は、足立区に続いて2番目となっています。

75歳以上の方を後期高齢者と呼んでいますが、4万6,733人に増加して、13.2%に上昇しています。平成29年に、高齢者の半数が後期高齢者になりました。このことは、高齢化率が高いことよりも重要なことで、75歳を超えると、やはり医療や介護への需要が大幅に増加するからでございます。高齢者の中で、75歳以上の高齢者が占める割合は、上昇し続けております。また、一人暮らしの高齢者が増えていることも、大きなポイントとなっております。

それから、地域別の高齢化率でございますが、最高は桐ヶ丘地域の40.1%で、最低は東田端地域が15.2%と、かなり地域差がございます。このことから、地域の特色に応じた施策が必要ということが言えると思います。

(スライド3参照)

こちらは、北区の高齢者人口、高齢化率の変化をグラフにしております。一番左が昭和40年ですけれども、その頃は、人口40万人のうち、65歳以上の高齢者は1万8,175人、高齢化率は4.2%。75歳以上の後期高齢者は4,200人で人口の1%、高齢者の中に占める割合も23%でした。折れ線グラフが高齢化率で、棒グラフの一番下が年少人口、それから真ん中の色の濃いところが生産年齢人口で15歳から64歳の方です。そして、白抜きになっているのが、前期高齢者で65歳から74歳、そして一番上の網かけになっているところが後期高齢者です。

昭和40年の資料を調べてみたら、北区では、100歳以上の方がいらっしゃらなかったんです。最高齢は99歳で、95歳以上の方がたった7人でした。100歳以上の方が増え始めるのは、平成に入ってからになります。最新の今年の11月1日のデータを見ますと、最高齢は109歳の方、100歳以上の方は201人、95歳以上だと1,401人の方がいらっしゃいました。そう考えると、昔は人生60年とか70年だったのですが、今は「人生100年時代」といわれているのがよく分かります。

(スライド4参照)

続いて、日本の人口のピラミッドを見ていただきたいと思います。左が男性、右が女性です。ピラミッドというからには、本当は下が広がってはいけませんが、現状はひっくり返りそうになっております。これは、平成29年のデータですが、上のほうの濃い部分の一番人口が多いところが、昭和22年から24年生まれの第一次ベビーブームの方、いわゆる団塊の世代といわれる方です。こちらの世代が全て後期高齢者になるのが2025年でございます。 「2025年問題」とよく言われるのは、このことから来ております。また、この真ん中辺で少し人口

が多いところがございますが、これが昭和45年から49年のお生まれの方の第二次ベビーブームでして、この世代が子どもをたくさん産んでいけば、第三次ベビーブームというものがあるはずだったのですが、これが起きずにどんどん人口は減少しております。それぞれの年代の人口が、海外からの転入がない限りは、減ることはあっても増えることがありませんので、生産年齢人口がどんどん減っているということがよく分かると思います。「2040年問題」というのを耳にしたことがある方もいらっしゃると思いますが、これは、第二次ベビーブームの世代が高齢者になっていく時期のことを指しております。そうすると、本当に支える生産年齢人口が足りなくなるということがございます。

(スライド5参照)

次に、北区の人口ピラミッドが出てきます。先ほどの我が国の人口ピラミッドと比べていただくと、随分変な形をしております。こちらは、平成31年1月1日現在の資料ですが、46歳の人口が一番多くて約5,700人。20代後半から51歳までが5,000人を超えてまいります。団塊の世代も約5,000人。反対に13歳のところが一番少ないんですけど、ここが区内で約2,000人くらいです。そこからまた増え始めて、今2歳の方が3,000人近くまで増えまして、それ以下が減り始めております。この20年間かなり大きな人口の変化がございましたが、これは学校の統廃合や保育園の待機児童解消などの問題に大きな影響を与えているのではないかと考えております。北区は人口が増えている、若い方が入ってきていただいているということで、この生産年齢人口がかなりいらっしゃいますけれども、これを維持していくこと、また、子どもたちが本当に少なくなっているということを実感しながら、施策を進めて行く必要があると考えております。

(スライド6参照)

次は、高齢者の年齢階層別要介護・要支援認定率です。それぞれの年代でグラフを作っており、左側が65歳から69歳、それから70歳から74歳と、5歳きざみになっております。棒グラフの左側が人口、濃い右側が要介護、要支援の介護保険の認定を受けていらっしゃる方です。この棒グラフは、認定率を表しております。若い方はそんなに要介護認定を受けてないんですけど、80代を超えると、要介護認定率が急上昇していきます。これを見て分かるように、75歳以上の後期高齢者人口が増えるということが、要介護認定者が増えること、イコール介護保険を使う方が増えていくということがお分かりになると思います。90歳を超えた方は、人口も減ってまいります。8割以上が介護保険を利用されています。デイサービスなどの介護保険を利用することで体の状態が維持できて、在宅での生活が続けられているという方も多いと考えております。また、反対に65歳から74歳の前期高齢者の方は、9割近くは皆さんお元気で過ごされているということが分かると思います。

(スライド7参照)

今、高齢者をめぐる課題は様々でございまして、問題の複雑化、複合化が進んでおります。「8050問題」、「ダブルケア」、「ヤングケアラー」などを挙げさせていただきましたが、ご存知でしょうか。時々新聞などで、この頃耳にするようになったと思います。「8050問題」というのは、80歳代の親がひきこもりの

50代の子の生活を支えている状態を指す言葉で、今こうした親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなるケースが顕在化しております。親の年金で無職の子どもが生活しているということもございまして、今、親の世代は年金的には恵まれているので、今後そのお子さんたちの生活をどうしていくんだらうということも問題になっております。

また、「ダブルケア」というのは、晩婚化や高齢出産により、子育てと介護が同時期になってしまう現象を指します。また、少子化により兄弟姉妹も少なく、親戚との関係も薄れている状態から、介護の分担ができずに一人で抱え込むケースも増えてきております。「ヤングケアラー」という言葉も、この頃聞くようになりましたが、これは、病気や障害のある親や祖父母、兄弟等の家族を介護する18歳未満の若者のことです。介護のために大人が担うようなケアの責任を引き受けて、家事や家族の世話、感情面のサポートも行っている子どもたちのことで、学業面の影響や生活面の影響が心配されております。

このような様々な課題が複雑化、複合化していることは、関係機関が点で支えるのではなくて、線や面で支えることが必要になってきており、連携する包括的な支援体制が必要と考えております。

(スライド8参照)

この計画を策定する中で、アンケート調査を行ってまいりました。そして課題として出てきたのが、いきがい・社会参加の必要性でございます。高齢者が、元気で長生きするためには社会的役割を持つことがいいとされております。役割がある中での高齢者の社会参加が必要で、計画の策定の調査の中では、参加者として参加はしてもよいということが一番多いことから、参加を促すようなコーディネートをすることが重要だと考えております。健康寿命を延ばすためには、社会とのつながり、近所付き合いや社会参画を作っておくことが重要で、社会とのつながりの種類や量が多いこと、社会とのつながりを介して受け取る支援が多いことが、喫煙や飲酒、運動などの生活様式に比べて死亡率の低さにより影響を与えることが分かってきております。

本日、こちらの「あなたも あなたのまちも 笑顔で長寿」というチラシを配らせていただきましたので、ご覧ください。チラシの表の下のところですが、週1回以上、仲間と運動すると要介護状態になりにくいということで、棒グラフが出ております。週1回以上仲間と運動することを1倍とした時、週1回未満仲間と運動した時のほうが、週1回以上一人で運動した時よりも要介護認定へのリスクが低い、という結果が出ております。運動の回数よりも、仲間と運動したか一人で運動したかということでリスクが違ってくるといってございまして。

よく男性はこもりがちなので、一人で活動するということになりがちで、やはり仲間を作ってほしいということ。反対に女性はおしゃべりとかで仲間はたくさんいるんだけど、うちで電話ばかりしていて、外出の機会が少なくて、体を動かす機会が減ってしまうということで、男性の方もたくさん人と接する場面に参加していただくこと、それから女性の方に外に出ていただくことが、重要なことも考えております。

(スライド9参照)

3点目としては、認知症高齢者の増加でございます。後期高齢者の増加に伴って、認知症を発症する人数も増えてまいりまして、誰もが認知症になりうるというもので、身近なものとなっております。後期高齢者の増加に伴い、85歳以上では二人に一人が、90歳以上では3分の2は認知症だと推定されておりますが、認知症の方が本当に何人いらっしゃるかというのは推計値のみで、はっきりした数が出ておりません。ただ、認知症は徐々に進行していくので、地域の方に支えていただき、できることはやっていただく、そして社会参加の中で認知症の進行を遅らせることが大事だと思っております。

(スライド10参照)

今まで述べてまいりました様々な課題、高齢化率が高いこと、後期高齢者が増加していること、認定者が増加していること、一人暮らしの高齢者が増加していること、また、問題が複雑化、複合化していること、高齢者の役割と居場所作りが大事なこと、認知症の人の増加、それから高齢者の生きがいや就労のことも課題となっております。それらに対応していくために、「人生100年時代に誰もが輝ける北区を実現するために…」ということで、「北区版地域包括ケアシステム」をますます進めていくことが大事だと考えております。

(スライド11参照)

ここからは、簡単に地域包括ケア推進計画の理念と体系をお話させていただきます。基本理念は、「みんなで支え安心してらせる地域づくり」。基本方針としては、「北区版地域包括ケアシステムの深化～地域共生社会の実現に向けて～」ということで、目標と施策の方向性をお示ししております。

(スライド12参照)

「地域の特色を反映した施策の推進」、それから「認知症の人や家族の視点を重視した施策の展開」、「高齢者あんしんセンターの機能強化」、「高齢者の生きがい・社会参加の促進」を重点的な取り組みとしております。

(スライド13参照)

そして、地域包括ケアの総合的な展開として、基本目標の一つ目は、「一人ひとりが輝くための多彩なネットワークづくり」。施策の方向性として、「地域のすべての人々が互いに支え合う体制の充実」、「多様な地域資源の活用」、「多世代間の交流による重層的なつながりの創出」を掲げております。

(スライド14参照)

次のスライドとして、「おたがいさまネットワーク」や「絵本の読み聞かせ」など、施策の一部をご紹介します。

(スライド15参照)

基本目標2は「自立して豊かな高齢期を過ごすために」ということで、施策の方向性としては、「生きがい・役割を実感できる環境の整備」、「健康寿命の延伸」、「社会参加・介護予防の促進」です。

(スライド16参照)

その施策として、「いきがい活動センター」を1月8日にオープン予定です。また「介護予防リーダーの会」の方がご活躍いただいておりますし、ウォーキングなど「健康づくり」の施策も進めております。

(スライド17・18参照)

基本目標3は、「多様な機関の協働による支援体制の充実」で、「高齢者あんしんセンターの機能強化」や「専門職の連携」を進めてまいります。

(スライド19・20参照)

基本目標4は、「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために」ということで、「安全・安心の確保」、「ニーズや実情に合った住まいの確保」、「福祉人材の確保」、「在宅生活支援の充実」ということを施策の目標としており、今日皆様にお配りした「マイエンディングノート」を始め、「救急医療情報キット」や「福祉のしごと総合フェア」など施策の一部をご紹介します。

(スライド21・22参照)

5番目として、「北区認知症施策推進計画」を取り上げております。こちらは、国がまとめた「認知症施策推進大綱」に沿って施策を進めていくもので、その視点としては、「普及啓発・本人発信支援」、それから「予防というよりは備え、社会参加」。そして、「医療・ケア・介護サービス・介護者への支援」。4点目として「認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・認知症の人の権利」ということが施策の柱となってまいります。

(スライド23参照)

北区で行っている認知症の施策の一部をご紹介します。認知症患者がそれぞれの高齢者あんしんセンターで開催しているもので、「認知症知ろう、つながろう」ということで、9月に「中央図書館ブックフェア」を行っております。また施策の取り組みを紹介している「北区認知症あんしんなび」も作っております。

(スライド24参照)

簡単ではございますが、計画の説明をさせていただきました。計画については、ただいまパブリックコメントを実施しております。何かご意見がございましたら、1月8日までにお寄せいただくと幸いです。私からは、以上でございます。ありがとうございました。

何か、ご質問とかありますでしょうか。

◎区政モニター

パブリックコメントについて、お聞きしたいと思います。北区の自治会連合会の中でご説明された時にお聞きしたんですが、実を言うと私、町会の自治会長をやっておりますけれども、極めて深刻な状態であります。これに、都営住宅の建て替えがあり、4月に約400から500世帯の引っ越しがあるんですが、その中の6割近くの方が高齢者で、その中のまた6割近くは後期高齢者です。エレベーターのないところから、今度はエレベーターのある住宅になるんですが、そういう引っ越しに伴う現実的な身体的負担や、そのほかに新しい環境になることへの負担が、地域全体の大きな問題になっています。私としても、連合会長としての責任もありますけれども、積極的にパブリックコメントを寄せたいと思っておりますが、そのテ

マについて、現在私が思っていることを何でも書いてもいいのかどうかということをお尋ねしたい。テーマが限定されているものかどうかということをお聞きしたい。何かお役に立つことがあれば、今私どもが現実には抱えている問題を、区の中に要望できたらいいのかなと思っていますのでお聞きしました。長くてすみません。

◎高齢福祉課長

はい、今回の計画は、高齢者に関する様々なことに関する計画でございますので、地域でお困りのこと、それからこういうことはどうなんだろうとか、要望など、様々な視点でお寄せいただいても構いません。ですので、今お話いただいたこと、こういうことが問題になってくるんだということは、地域では当たり前で思っている、区役所に伝わってないということもかなりあると思います。そういう意味では、地域から挙がってきたことに対して、私どもに何ができるか、また、高齢者あんしんセンターも含めてどういうご支援ができるかということも考えていきたいと思っておりますので、率直にお寄せいただければと思います。

ほかに、よろしいでしょうか。

それでは、グループ討議と発表に移らせていただきます。

ここからは、王子高齢者あんしんセンターの職員でもある高齢福祉主査が進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

3 . 討 議

◎高齢福祉主査

改めまして、高齢福祉主査です。この後、グループ討議の進行させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。グループ討議の間、高齢福祉課の職員4人が机の間を歩いていますので、もし何か聞きたいこと等ありましたら、お声掛けください。

(スライド25参照)

では、まず、グループ討議の時間配分ですけれども、60分を目安にしていますが、少し時間も押していますので、こちらで若干調整をさせていただきます。

(スライド26参照)

皆さんに先にお配りしておりますが、こんなテーマで話し合いをしていただけたらなということで、「安心して暮らせる地域とはどのような地域か」、「高齢者の社会参加をすすめるには」。上の段については、「北区地域包括ケア推進計画」の基本理念に入っております。下の段が「重点的な取り組み」の4番「高齢者の生きがい・社会参加の促進」に当たるかと思っております。非常に幅が広いのですが、私たちの暮らしはすごく幅が広いので、皆さんのいろいろなお考えとかアイデアとかを思う存分出していただけたらなと思っております。

進め方としては、最初に10分程度個人ワークということで、お手元にお配りしています付箋に、ご自分の意見を書いていただく時間を取りたいと思っております。その後、グループの中で共有していただく、これを合わせて40分程度。最後にグループ発表を20分程度と考えております。

(スライド27・28・29・30参照)

では、個人ワークに入っていきたいと思います。先に、皆さんのテーブルの中央に模造紙を置かせていただきました。先ほど申し上げた二つのテーマについて、まず、それぞれ視点①「こんなことがあったらいいな」ということをお書きいただきたいなと思います。それについては、青色の付箋を使います。例えば、「高齢になっても安心して暮らせるために、こんな手助けが近所であつたらいいな」とか、「こんな集まりがあつたらいいな」とか、「自分のこんなスキルを発揮できる場所があつたらいいな」というようなこと。よくある質問としては、「介護保険のサービスを受けるほどではないのだけれども、高い所の電球が取り替えられないから、その時だけ手助けしてほしいな」という高齢者の方のご相談とか、「なかなか遠くのお友達と会うことができなくなったんだけど、近所の付き合いがなくて気軽に寄って少しおしゃべりして、お友達作りができる場はないだろうか」といったご質問です。

視点②としては、視点①の中で皆さん自身が、「もし近所で出かけるとしたら、こういう場が欲しいな」というようなことがあつたとして、今はそういう場がない場合には、「どんな人とか物とか場所があつたらそれが実現できるだろうか」というような、夢のようなお話で構いません。それを、赤色の付箋に書いていただきたいなと思います。例えば、「近所で、ちょっとしたゴミ出しの声掛けとかならできるんだけど」とか、「話し相手ならできるんだけど、逆に話し相手になってくれる人が欲しいな」とか、そういったことを書いていただければと思います。付箋はそれほど大きくありませんので、一つの付箋に対して一個ずつくらいのご意見を書いて、回答する欄のところに貼っていただければと思います。お時間になりましたら、合図のチャイムを鳴らしたいと思います。その後、発表になります。

先に、個人ワークのほうに移りたいと思います。では、まずは、皆様のお手元のほうに青色の付箋と赤色の付箋をご用意ください。

4 . 発 表

◎高齢福祉主査

それでは、時間になりましたので、準備ができましたら発表に移りたいと思いますが、発表の方、ご準備は大丈夫そうでしょうか。

発表の順番ですが、今日は12月5日なので、5グループから発表をお願いしたいと思います。5グループさんが入口に近い真ん中の所にいらっしゃるので、そこから順に、時計回りでマイクを回していただきます。

準備をしていただきながら、宣伝をさせていただければと思います。

皆さんのお手元に、「こんにちは高齢者あんしんセンターです」という冊子を配らせていただきました。ちなみに、「高齢者あんしんセンター」という所をこの会議に参加するまでご存知なかったという方は、どれくらいいらっしゃるでしょうか。はい、ありがとうございます。私達もますます宣伝していかなければなと思います。「こんにちは高齢者あんしんセンターです」という、地域包括支援センターのご案内になります。北区内には、今、私どもの王子を含めて全部で17か所ございます。

ぜひ、自分のお住まいの地域がどこのあんしんセンターの管轄なのかなというのを見ていただくと幸いです。

もう一つ、「北区ニュース特集号」をお配りしました。こちらの見開き中面に、「十条高齢者あんしんセンター」にモデルになってもらいまして、あんしんセンターの職員がどんな活動をしているかなというのを、ご紹介をさせていただいております。ぜひ、全く知らないという方も、とても多いと思いますので、参考に見ただけならと思います。

もう1枚めくっていただくと、全高齢者あんしんセンターの職員が顔出しをしておりますので、あんしんセンターの職員と会う際には、「この人か」みたいな感じでお気軽に接していただくとうれしいなと思います。また、最初のページをめくったところに、「いきがい活動センター」がオープンしますという宣伝が載っております。今、オープンに向けて準備中なんですけれども、こういった高齢者の方が活動できる拠点になったらいいなと考えているところでございます。

そして最後に、「マイエンディングノート」をお配りしております。こちらは、各高齢者あんしんセンターでお配りできるように準備をしております。自分が今後北区に住み続けて、どんなふうに生きていきたいかなとか、どんなふうに最期を迎えたいかなとか、そういったことを皆さんとご家族とが話し合えるきっかけになるような冊子になっています。全部を書かなければいけないというわけではなく、書きやすいところから書けるようになっておりますので、ぜひご自宅に帰ってご家族と皆さんと、見ながら書いていただきたいなと思います。

では、発表に移ってよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

◎区政モニター（5班）

限られた時間なので、手短にお話したいと思います。

5歳位の時から今までずっと北区に住んでおりますので、大体の状況、環境というのは分かっているつもりです。そういったことで、3人で討議して貼り出してみました。まず、「こんなことがあったらいいな」というのは、「集まれる場所」があったらいい。それから、いくつかやっているところもあるらしいんですけども、「体操」と「ラジオ体操」ができたらいい。それから、「区の保養所」は行革で大分なくなっちゃいましたよね。今までは、区民がそこで非常に楽しんで喜んでいたので、そう多くは要らないんですけども、多少、区の保養所を設けてもらうといいなということです。それから、まずは「あいさつ」ですね。あいさつが基本じゃないかということになりました。最近では近所でも、年代層が変わってきてまして、あそこの家が引っ越したり、別の人が入ってきたりして、いろいろ町会があるんですけども、その町会も以前とは違ってきたなということで、そういったところも見直さなくちゃいけないかなと思いました。

それで、今言いましたような「こういうものがあったらいいな」というものに対して、「空き店舗や会議室を活用する」、「小さな集合体、集合場所で実施する」、「困った時に話せる人を作る」。これは、近所であるとか、以前勤めていた職場の同僚であるとかだと思えます。それで、一部で出ていたんですけども、「PDCAサイクルの活用」。これは、品質管理でよく使われる言葉なんですけど、PLAN、DO、CHECK、ACTIONということで、何かをやってみて、それ

がどうなるとこうだということ、こういったサイクルを回しながら、また新たにサイクルをどんどん回していくと、そういう方法でやっていったらいいかなと思いました。

それから、「高齢者の社会参加」なんですけども、「気軽に相談できる」とか、「ウォーキング」ですね。それから、「北区ニュースなどによるPR」。「北区ニュース」が一番手っ取り早く、話が入ってくる中では、「北区ニュース」が一番有効的なんじゃないかと思われまます。

ちょっとまだ話したいことがあるんですけども、時間が来てしまいましたので、この辺で終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

◎高齢福祉主査

ありがとうございました。全部を共有したいところではあります。

それでは、次に3グループの方にマイクを回したいと思います。「ここが一番話題になったね」とか、「ぜひこのアイデア皆さんと共有したいな」ということを中心にお願いいたします。2分のところで終了のチャイムを鳴らします。では、お願いします。

◎区政モニター（3班）

3班から発表させていただきます。私どもの班は、北区育ちの方、それから東京都内でお引越しをされた方、それから私のようにちょっと転々と引っ越している者等々がいるというバランスがいいかなと思っています。

「どのような地域であれば安心して暮らせるか」という視点で出てきた案ですが、こちらについては、特別な何か、こういうイベントがあったとかそういうことではなく、すごく基本的なことなんですけども、「あいさつが交わせるようなまち」。「人とライトにつながるように、何となく人の気配を感じられるまち」だったら安心できるんじゃないかな。それから、新しい技術や生活、最近で言うと、「ZOOM」とか「LINE」とか「ウーバーイーツ」とかという言葉をよく聞くと思うんですけど、そういうものを「気軽に教え合えるようなまち」だったら、新しい生活様式とかいろいろ言われていますけど、そんな中でも安心して暮らせるんじゃないかな。あとは、「防犯パトロール」のようなこと。それから、「ゴミの捨て方」とか、ものすごく生活に密着したことです。それから、「まち自体の景観」がきれいだったらいいな。あとは、公園も伸び過ぎた木が伐採されていなかったりするので、そういったものが「整備」されていると安心して暮らせるかなと。

「それらを実現するために必要なもの」として挙がってきたのが、「コミュニティバスの利用」です。今は交通空白地帯の補完の視点でコミュニティバスというのがあると思うんですが、北区内の観光できるような場所を回遊するようなコミュニティバスがあったらといいなというところですか、あとは、「車や自転車を気にせず散歩できる」。例えば、墨田川テラスを上流まで完成させていただいて、散歩のできる場所を増やすとか。あとは、先ほど出てきた新しい技術への対応としては、各地域において「各個人が提供できるスキルなどを公開利用できる仕組みがあればいいな」ということが挙がっております。

それから、「社会参加をするには」というところでは、「知らなかった方と出会う機会」。例えば、今日のような機会とか、コロナ禍においてもヨガや体操ができ

るような仕組みを考えるとということ。あと、拳がっているのは、「報酬を得ることのできる仕組み」が、地域にあれば社会参加ということにつながるんじゃないかなと思っています。

ここでカバーしきれていないところと言えば、「災害時の対応」ですね。高齢者の方が災害時にどのように対応すべきかというところを、もっとはっきりさせていくこと。例えば、「避難所への行き方を電柱に貼る」とか、そういうことでもいいと思うんですが、そうすることで安心できるかなということ。あと、最後に拳がったのが、「区主催の合コン」。合コンといっても、年代や性別を超えて話ができる場所、そうしたものをやっていただくと、社会参加にもつながるんじゃないかなと思っています。ありがとうございます。

◎高齢福祉主査

はい、ありがとうございます。実は、今の発表で3分でした。このような目安でお願いいたします。

では、次に2班、お願いいたします。

◎区政モニター（2班）

2班でございます。今回のテーマは、今まで私が区政モニターに参加した中で一番身近で、これはぜひとも解決していきたい大きなテーマというんでしょうか、今までいろいろとやった中で一番よかったんじゃないかなと。こういうことを、ずっと続けていただきたいなと思います。

それでは、私のグループでは、「安心して暮らせる地域はどのような地域か」ということで申し上げますと、意見が幾つか出ましたので、主なところで申し上げます。まず、「防災や防犯の仕組みが普及」する。それから、「趣味を楽しめる仲間、そういう場所」があればいいなと。それから、今、お互いの距離が非常に遠くなっているので、「顔と名前が分かる関係を築いてくれるような場所」があったらいいなと。「ウォーキングみたいな集まり」があれば、それを通じてお互いコミュニケーションが取れる。それから、高齢者になるといろいろなことがあるので、「気軽に相談ができる場所」があればいいのかなと。それともう一つは、これも高齢者に関するものですが、例えば、小さな大工仕事とか電球交換ができなくなりますので、そんな時に電気屋さんや大工さんに頼むとお金が非常にかかるので、そうではなくて、「ボランティアでやってくれるような人」があればいいな。それから、「テレワーク」とか、「近所とのネットワーク」とかがあればいいのかな。それから、高齢者になるといろいろと問題が出てくるので、その時に「身近に相談できる場所」とか、「秘密を守ってくれる場所」とかがあればいいのかな。

「高齢者が社会参加するため」には、「高齢者の参加について、より相談しやすいものにする」。それから、「ステッカーなどで、私のところはこういうことができますよと知らせる」、「コミュニティバスとかを作る」、「地域交流リーダーを養成する」という意見が出ました。

「実現するために必要なこと」については、「小学校で学習をサポート」、「町会などの充実」、「施設や場の充実」、「趣味・スポーツをする」、「ボランティアでできる人を探す」、「外国人の日本語や生活をサポートする」という意見ができました。以上でございます。すみません。

◎高齢福祉主査

ありがとうございました。すばらしいまとめをしていただいて、ありがとうございます。

それでは、次、1グループの方をお願いします。

◎区政モニター（1班）

すみません、1班です。1班は、北区の上から下から真ん中の4人でございます。一番意見が出ましたのが、マンションが多くなって、そのマンションが町会に入らない、それからマンションの中に一人暮らしの方が多というお話がたくさん出ました。ではどうしたらいいかって、「マンションの中で、あんしんセンターを活用しよう」ということでした。ということは、「マンションの中にある集会場に、そのあんしんセンターの職員に出張で来てもらう」。例えば、マンションに出張で来ていただいて、「簡単な体操、脳トレ、いろいろなゲーム」とかをするという意見が出ました。私は、すごくいいなと思いました。やっぱり皆さん、一人でいる方は、出ようと思う方が少ないと思うんです。だから、やはりそこに来ていただいて、扉をまず開けていただいて、そこから一歩を始めるということは、とってもいいことだと思いました。「あんしんセンターの活用」です。皆さん、よろしくをお願いします。

それから、これは私ごとなんですけれども、ボランティアでサロンをやらせていただいている、コロナでずっと閉まっていたので8月から開催したら、もう皆さん待っていたかのように来てくださるんです。もちろん、手の消毒、検温、それからソーシャルディスタンスなどの対策を講じて話をしているんですけども、やはり皆さんお話したいんです。だから、これは社会福祉協議会のお仕事なんだろうけども、そういう「サロンみたいなものを、地域ごとに近くに設ける」というのはいいと思います。

それから、「声掛け」。さっきも出ましたけれども、例えば、お買い物に行って、スーパーなんかで近所の方に会ったら、「お元気ですか」という一言声をかけるだけでも、皆さん「ありがとう」と言って返してくださるんです。だから、そういう心がけがあるといいなと思います。

それからあとは、何かありましたかしら。こんなものでよろしいそうです。すみません、ありがとうございました。

◎高齢福祉主査

ありがとうございました。

それでは、隣の4グループです。よろしくお願いたします。

◎区政モニター（4班）

はい、4グループです。よろしくお願いします。

私たちのグループは、自由に発言したので、付箋も自由な感じになっております。「こんなことがあったらいいな」を実現するにはどうしたらいいかということは、大体四つくらいにまとまりました。

まず1個目が、「地域の世話人というのを行政が作る」ということで、昔いた「おせっかいおばさん」や「おせっかいおじさん」みたいな、ちょっと困ったことを相談できる人がやっぱり今いなくなってきたので、それを行政の方が作ってくれ

るといいなという話が出ました。そういう「ボランティアを養成して、ボランティア券がもらえて、それを将来自分がお世話になるときに使う」とかができたらいいなというのが1個ありました。そうすると、照明の取替えをどうするとか、大きな買物どうするとか、落ち葉の管理とか木の管理どうするとか、壊れかけた屋根とか樋とか壁どうするとか、ちょっとした相談に乗ってくれるのではないかと思います。

二つ目は、「一人暮らし老人マニュアルというのを作ったらいいんじゃないか」ということです。「マイエンディングノート」には、こういうことが私は好きで、こういうことで死んでいきたいですということを書くと思うんですが、それに至るまでの経路がやっぱりいろいろだと思うんです。例えば、どんな病気になるとどうなる、脳梗塞になるとこうなるとか、認知症になるとこうなるとか、もうちょっと、エンディングに向かってどう生きていけばいいかというところが、「フローチャート」などになっているといいなという話がありました。例えばですけど、80歳で妻に先立たれた夫が一人暮らしでどうやって生きていくかなど、そういう具体的な案があるといいなという話が出ました。そうすると、病院にかかるのでもなく、介護保険にかかるのでもなく、「ちょっと腰が痛い」とか、「ちょっと食事どうしたらいいの」というのを相談できるなということになりました。

あと二つあったんですが、お坊さんとか牧師さんとか、「精神的な面をサポートしてくれる人」がいたらいいなということと、あと、「台風とかで避難する時に、今は家にいていいのか、今は逃げたほうがいいのかをリアルタイムで教えてほしい」というのがありました。以上です。ありがとうございます。

◎高齢福祉主査

ありがとうございました。

では次に、お隣の6グループの方です。お願いいたします。

◎区政モニター（6班）

では6グループが発表させていただきます。

最初に、「安心してらせる地域とはどのような地域か」ということで、私達がまとめました。まず、2025年には、全国で約700万人の認知症の患者が出ます。それで、「認知症ですと隠さずに言えるまち」がとっても大事だと思うんですよ。そのためにはどうしたらいいか。まず、「相談をする人がいる」、「認知症と共生ができる」ということだと思います。あと、皆さんが疲れた時に「休めるスペースのベンチなどが欲しい」ということも出ました。

あと次の、「高齢者の社会参加をすすめるには」ですが、一番手っ取り早いのが、身近にある「老人会なんかに参加する」ことが一番いいと思うんです。そして、ちょっと参加しにくいなと思う時には、「近所の人声掛け」ってとても大事だと思うんです。それで、今回の北区ニュースに出ていましたけど、そういうところに参加することにより、老人会では100歳までお元気な方も輪投げをやっています。太極拳もやっています。オセロもやっています。将棋もやっています。そういったことをみんなと楽しくできるということが、認知症の予防にもつながると思うんです。私達の最終的な結論は、「北区ニュース、民生委員、地域包括支援センターをうまく利用しようではありませんか」ということでした。以上です。

◎高齢福祉主査

ありがとうございます。

それでは最後になります、8グループの方お願いいたします。

◎区政モニター（8班）

8グループです。よろしくお願いいたします。

いっぱい出たんですけど、「こんなことがあったらいいな」と言うと、「今日は誰かと話をしたい」、「何かに困った時に聞ける人がいたらいいな」、「集まって料理を共に作り、食べる場所があったらいいな」、「年齢にかかわらず気軽に立ち寄れる場所があったらいいな」、「児童館とか公民館」、「気軽に集まっておしゃべりができる場所があったらいいな」などですね。

「高齢者の社会参加を進めるためには」では、「子育て支援ファミリーサポートでのサポート」、「ご近所の体操」、「外国人移住者に日本語などを教える場所があったらいい」、「子ども食堂でのサポート」、「学童保育での支援」、「知人の輪を広げるネットワーク」、「世代交流による育児の支援」という意見が出ました。そんなものをまとめますと、「人を求めている活動や組織の情報、それを何かまとめる場所があったらいいな」ということでした。「高齢者につながりやすい情報伝達の仕組み」があったらいいなというのは、「北区ニュース」や何かを見ているも活字を読まない人がいるので、年配の人でリーダーシップを発揮できる人がいろいろ教えてくれると一番いいんじゃないかなという意見がありました。

「実現するために必要なもの」では、これは「見守り隊」、「サロン」、「老人クラブ」、「民生委員」、「高齢者あんしんセンター」、「利用していない公共の場所」、「余った校舎の活用」、「同じ趣味の人の集まり」、「子ども・高齢者も利用しやすい公園作り」、「高齢者も利用しやすい公園」、「児童遊園は公園に改称する」、「銭湯のそのすぐそばに、談笑できる場所」、「名簿、町会、民生委員」、「豊島区の区民広場のような全世代型の集まる場所」という意見が出ました。

◎区政モニター（8班）

すみません。児童館とか高齢施設となると年齢で分けてしまうので、そうではなくて、区民みんなが集まれるような施設。あと、公園についても、児童遊園とか子ども用だよとか孫を連れて行かないといけないのかなというふうにするのではなくて、公園とか広場とか年齢にかかわらず集まれるその広場があるといいなということの提案です。

◎区政モニター（8班）

ということです。どうもご清聴ありがとうございました。

◎高齢福祉主査

はい、ありがとうございました。

七つのグループの方々皆さんと共有したいことが、まだまだたくさんあるなと思います。私達も、高齢者あんしんセンターとして地域の方々と話し合いをする場を設けていたりしますので、ぜひまた、各地域の中でも一緒に話し合いをさせていただけたらなと思います。ありがとうございました。

それでは、高齢福祉課長にバトンタッチします。

◎高齢福祉課長

皆様、本当に様々な意見をありがとうございました。グループワークで本当にたくさんのお意見が出ていて、付箋がたくさん貼ってあるのを見て、「ああ、素晴らしいな」というふうに感じました。発表を聞いていて一番感じたのは、挨拶とかを普段から少しずつ心掛けるとか、基本的なことがやはり一番大事なのかなということだと思います。あいさつが気軽にできる地域、玄関先で近所の方が通ったら「おはよう」と声を掛けられる地域が、本当に高齢になっても安心して暮らせる地域でありますし、子ども達にとっても安心して暮らせる地域であります。挨拶とか声掛けとか地域のネットワークとか、そういう基本的なことを大事にしていくことが、やはり大切だなということを感じました。また、これを高齢者になってから始めるということではなくて、多分お子さんに対して声を掛けるというのはすごく気軽にできることだと思うんです。今は下手に子どもに声を掛けるとどうのこうのという言い方をすることもありますが、やはり近所のおじさんやおばさんが「おはよう、いってらっしゃい」と声掛けられる地域というのが大事だと思います。それがひいては、声を掛けているおじいちゃんやおばあちゃん達を気にしてもらえる地域になっていきますし、みんなが安心して暮らせる地域になっていくのかなというふうに感じました。今回のように皆様と一緒に考えるということは、本当に大切だなというふうに思っていて、ここで出たアイデアを高齢者あんしんセンターにも持ち帰らせていただきたいと思っておりますし、また皆様と共に様々な地域の活動を作っていけるのかなというふうに思っています。

本日は、本当にありがとうございました。

何か、質問やご意見とかありましたら、お願いします。

◎区政モニター

今日が今年度最後ですか。とにかく非常にいい機会で、このグループの中でも、こういった課題解決型でみんなが同じことを考えてやるというのは、仲良くなれていいねという話がありました。すごくよかったですね。

ちょっと一言、技術的な問題として、この発表というのは、中途半端だと思うんです。できれば、来年もあるんだったら、まずホワイトボードに成果物を貼るでしょう、それをスマホで撮って、パソコンに飛ばしてそこで見るということが可能だと思うんです。スマホでこうやって見ていくのだったら、全体をずっと映すのではなくて、その人が話しているところをクローズアップしてすることもできるし、そういったある程度センスも必要なんだけど、プレゼンのセンスのある人が映像をそこに流す。これは簡単にできることですから、ネット環境なんて使わなくても、今時は、テザリングでもって、そのスマホからパソコンに入れて、そこに映すってことは簡単にできますからね。それを一つ考えて教えてもらえますか。

それともう一つは、議事録というか、録音の書き起こしがホームページにアップされていますけれども、そこに成果物が入ってないんです。せっかくいい情報が入っていますから、ぜひそれも画像としてホームページに入れていただきたいなと思いました。ただ実は、私は、前回、前々回と成果物に発表者の名前を入れてしまったので、それはちょっとまずいかもしいんですけれども、今回は名前が入ってないようですから、書き起こしだけではなく、全てのグループの成果物をそこにはめ

込んで行うといいと思います。以上です。

◎広報課長

すみません、今の件ですが、広報課長からお答えさせていただきたいと思います。

次年度の会議運営ということで、今ご意見をいただきました。いただいたご意見を踏まえまして、広報課で検討していきたいと思っております。また、議事録についても、検討していきたいと思っております。よろしく願いいたします。以上です。

◎高齢福祉課長

ありがとうございます。ほかに、ご意見やご質問はございますでしょうか。

◎区政モニター

すみません、一つ。民生委員のことですけども、区の人口も大体35万とか、その位いらっしゃるみたいですが、区の民生委員も大体300人ちょっと位ですかね。要するに、区の人口に対して民生委員の数がちょっと少ないのかなという感じがするんです。そうすると、なかなか民生委員を今誰がやっているのか知らない人も結構いますし、それだけいろいろと手が回らないことがあるのではないかと思うんです。この場で言っていていいかどうか分かりませんが、場合によっては、民生委員補佐であるとか、副民生委員とか、そういったものを若干増やしてもらって、もうちょっとその辺のところを充実させたほうがよろしいかなと思うんですけれども、その点はどうなんでしょうか。

◎高齢福祉課長

ちょっと私からあまり詳しいことはお答えできないのですが、民生委員さんは、今、なり手がなかなか見つからなくて、全部配置ができてないという状態もございます。また、民生委員の経験者の方に、補佐的に活躍していただいているということもございます。そういうご意見があったということは、所管課に伝えてまいります。民生委員さんに限らず、様々な形で、皆さん地域でいろいろ見守り活動などもしていただいておりますので、そういう方々が、民生委員さんではないですが補佐的に地域を見ていっていただけるとうれしいなと思っております。ありがとうございます。

では、すみません、どうぞ。

◎区政モニター

手短かに申し上げます。今は、この国や北区にとって非常に重要な時だと思っております。本当に高齢者の問題は、大きな目で見てもとても大切なことだと思っておりますので、ぜひ形を変えながらも皆様の意見を聞きながら、高齢者の方々が前よりもちょっと住みやすいというか、前よりもちょっといいなというふうに感じて北区に住み続けることができれば、皆さんも安心して暮らせるんじゃないかと思っております。ぜひ、こういう試みを大きく広げていただきたいと思います。

◎高齢福祉課長

はい、ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。ご意見とかご質問とか、ありますか。よろしいでしょうか。では、広報課にマイクをお返ししたいと思います。ありがとうございます。

◎広報課長

皆様、グループワークと発表、ありがとうございました。本日グループワークをしていただいたテーマ以外で、ご意見やご質問等がありましたら、会議終了後に職員までお声掛けください。

最後に、皆様に連絡事項がございます。

— 事務連絡 —

5 . 閉 会

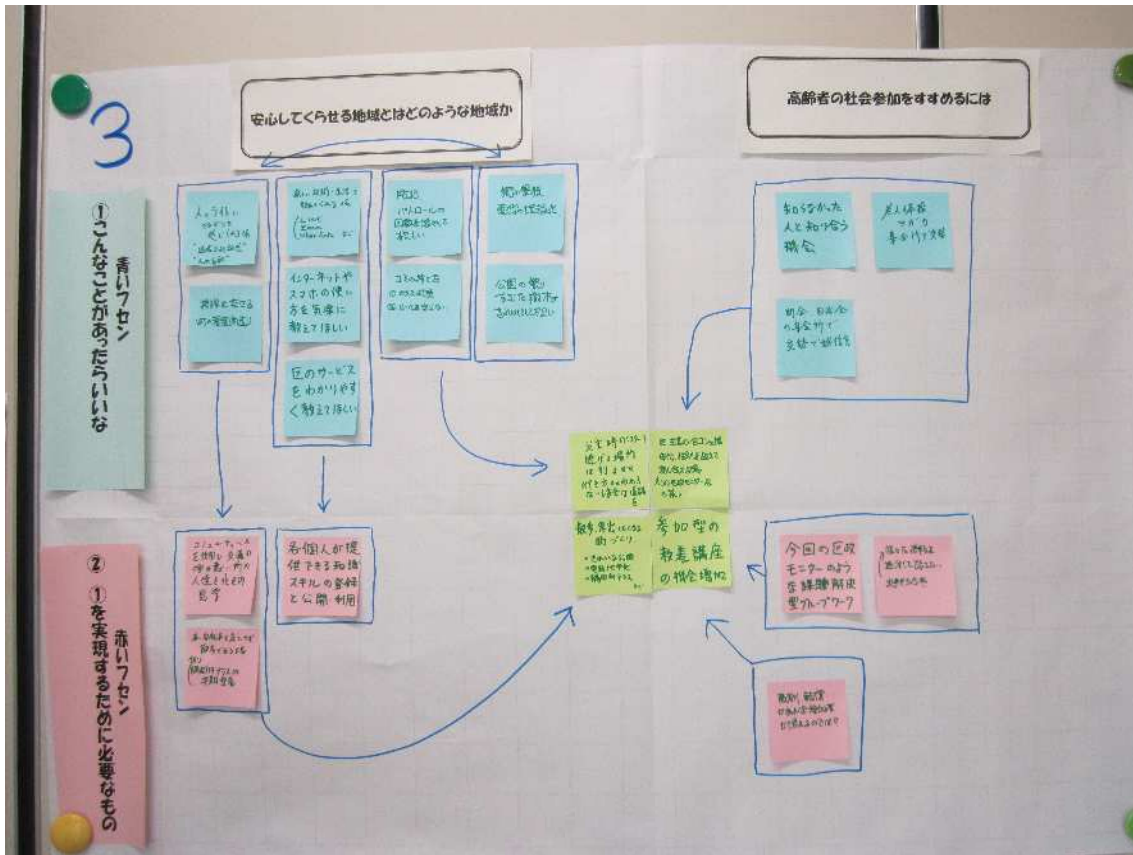
◎広報課長

最後になりますが、本日が今年度最後の区政モニター会議となります。皆様、区政モニター活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございました。来年度につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しながら、よりよい会議運営に務めてまいりたいと思います。

なお、来年度の会議日程やテーマにつきましては、現在未定となっております。決定次第、皆様にご連絡をさせていただきますので、引き続き、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまをもちまして「令和2年度第3回区政モニター会議」を終了させていただきます。皆様、長時間にわたりありがとうございました。来年度のモニター会議も、どうぞよろしくお願いいたします。

3班



4班



5 班

安心してくらせる地域とはどのような地域か

①こんなことがあったらいいな
青いフセン

- 車庫の場所
- 区役所
- 区庁舎
- 区庁舎の近所
- 区庁舎の近所
- 区庁舎の近所
- 区庁舎の近所
- 区庁舎の近所
- 区庁舎の近所
- 区庁舎の近所
- 区庁舎の近所

②①を実現するために必要なもの
赤いフセン

- 小さな集合体
- 空き店
- 町会
- 町会
- 町会
- 町会
- 町会
- 町会
- 町会
- 町会
- 町会

高齢者の社会参加をすすめるには

- 何の役
- 女性
- 何の役
- 何の役
- 何の役
- 何の役
- 何の役
- 何の役
- 何の役
- 何の役
- 何の役

6 班

安心してくらせる地域とはどのような地域か

①こんなことがあったらいいな
青いフセン

- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声
- 近所の人達の声

②①を実現するために必要なもの
赤いフセン

- 相親と
- 相親と
- 相親と
- 相親と
- 相親と
- 相親と
- 相親と
- 相親と
- 相親と
- 相親と

高齢者の社会参加をすすめるには

- 老人会
- 老人会
- 老人会
- 老人会
- 老人会
- 老人会
- 老人会
- 老人会
- 老人会
- 老人会

北区ニュース
民生委員
地域包括支援センター
}を利用(中)

安心してらせる地域とはどのような地域か

① 青いフセン
「こんなことがあったらいいな」

今日もまた
朝と夜は
(2019)

歩いて歩け
て共-わり
食べ易所

気軽に歩け
おし-べり
と-る場所

何だか
時-間
ホ-ム

手-間
が-あ-る
ホ-ム

手-間
が-あ-る
ホ-ム

高齢者の社会参加をすすめるには

多-く
フ-リ
フ-リ

多-く
フ-リ
フ-リ

多-く
フ-リ
フ-リ

多-く
フ-リ
フ-リ

多-く
フ-リ
フ-リ

多-く
フ-リ
フ-リ

多-く
フ-リ
フ-リ

多-く
フ-リ
フ-リ

② 赤いフセン ①を実現するために必要なもの

見守り隊

サロン

利用して
公-民
の-共-同
の-活-用

同-じ
シ-ョ-ウ
の-人-を
集-め

手-間
が-あ-る
ホ-ム
の-活-用

外-国
の-人-と
の-交-渉
の-活-用

フ-リ
フ-リ
の-活-用

活-動
の-場
の-活-用

多-く
の-人-と
の-交-渉

ラ-イ
ブ

見守り隊

高齢者
の-活-用

見守り隊

高齢者
の-活-用

令和2年度第3回区政モニター会議議事録
令和3年2月発行

刊行物登録番号 2 - 1 - 1 2 3

発行

東京都北区政策経営部広報課

東京都北区王子本町一丁目15番22号